

年頭の辞

九州運輸局観光部長 堀 信太朗



令和3年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年の豪雨災害により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

令和2年7月豪雨により大きな被害を受けた九州各地の観光地では、現在も大変困難な状況のなかで、地域の皆様が、発災前よりも良い形での復旧を目指して日々奮闘されています。九州運輸局観光部としても、被災地域が再び賑わいを取り戻すことができるように、地域の皆様とともに観光振興に取り組んで参ります。

令和2年は新型コロナウイルス感染拡大により、国内外の観光客の動きは大きな影響を受けました。令和元年には年間422万人の九州への外国人入国者数がありましたが、令和2年3月に水際対策が強化され、外国船社のクルーズ船寄港も中止されるなど、国外からの観光客が皆無となる中で、国内観光需要の重要性が改めて見直されています。

こうした状況の下、社会経済活動と感染拡大防止の両立を目指し、「新たな旅のスタイル」の普及・定着を目的とした「Go To トラベル事業」等の国内観光振興事業が展開され、九州の観光地でも賑わいが戻りつつありますが、令和3年も新型コロナ感染症拡大の局面では、感染拡大防止策の取組みを強化・継続することも必要です。

このように九州の観光を取り巻く環境が一変した状況では、これまでの取組みの延長ではなく、新しい観光需要の変化に柔軟かつ創造的に対応していくことが重要です。アウトドアスポーツや自然をテーマとした旅行、近距離旅行、地域の生活や文化を経験する体験型観光、仕事と旅行を両立させるワーケーションやブレッジャーへの関心の高まりなど、具体的な観光市場の変化が生じています。

令和3年は、新型コロナ収束後を視野に入れ、国外への観光プロモーションを継続しつつ、観光地の受入可能な人数を超える観光客が押し寄せる「オーバーツーリズム」を回避し、観光受入地域が観光による利益・便益を享受するための仕組みとして、地元住民参加型の観光まちづくりや環境

負荷軽減に配慮した「持続可能な観光」のあり方を検討するには良い時期であると考えています。

九州運輸局観光部においても、観光ニーズの変化を的確に捉え、新型コロナ収束後に、九州観光が発展的な形で回復することができるように、九州運輸局観光部一同、一層の努力を致します。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。